

新・水土を守る人々

地域との関わりを密に
地域の農業を守り、支えます！

1. 紹介して下さる方

思川西部土地改良区

事務局長 平本 隆幸

平成 6 年 美田南部土地改良区に就職

平成 21 年 合併後、思川西部土地改良区に就職

平成 29 年 思川西部土地改良区 事業係長に就任

令和 2 年 思川西部土地改良区 事務局長に就任

【一言メッセージ】

改良区職員として 26 年。

今後とも地域農業の発展のため貢献していきたいと思っています。

趣味は、山スキーです。百名山を登りながら日本各地を旅しています。

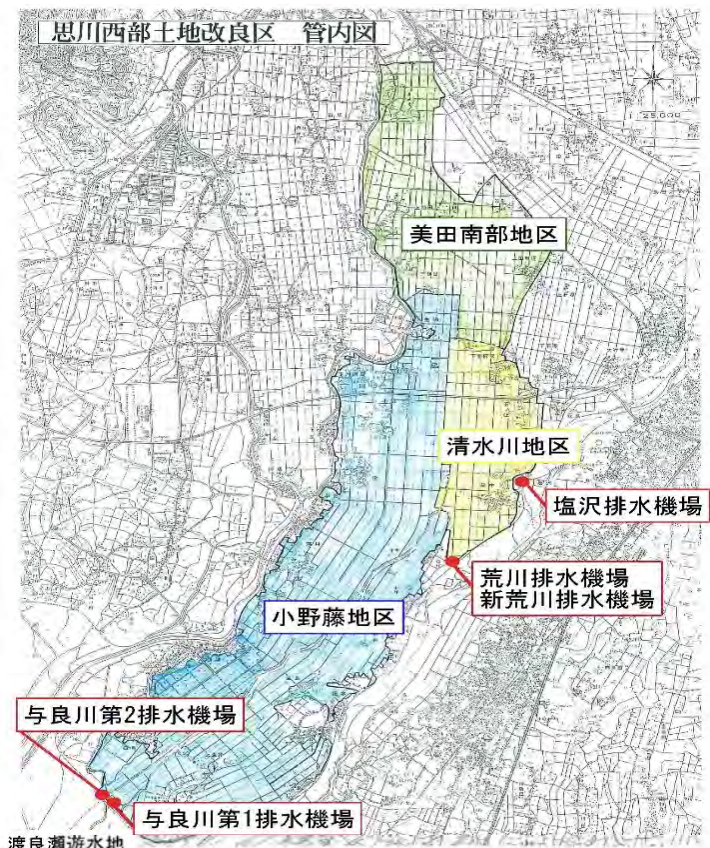


2. 水土の歴史

おもいがわ せいぶ

思川西部土地改良区は、栃木県南部に位置する小山市・栃木市の 2 市 1 町を所管する清水川土地改良区、小野藤土地改良区及び美田南部土地改良区が平成 21 年に合併して1つになった改良区であり、受益面積 2,212ha(田 2,104ha 畑 108ha)を有しています。

本改良区が所管している地域は思川と巴波川に東西で挟まれ、南は渡良瀬遊水地に接する平坦な農業地帯となっており、古くから度重なる洪水被害に見舞われてきた地域であるとともに米麦を中心とした農業が営まれてきました。ま



思川西部土地改良区管内

た、平成 20 年に小山市が環境都市宣言を行い、平成 26 年には渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地に登録され、同年には渡良瀬遊水地にコウノトリが飛来・定着するようになり、コウノトリを撮影するために毎年県内外から多くの人々が訪れている自然環境保全にも関心が高い地域でもあります。

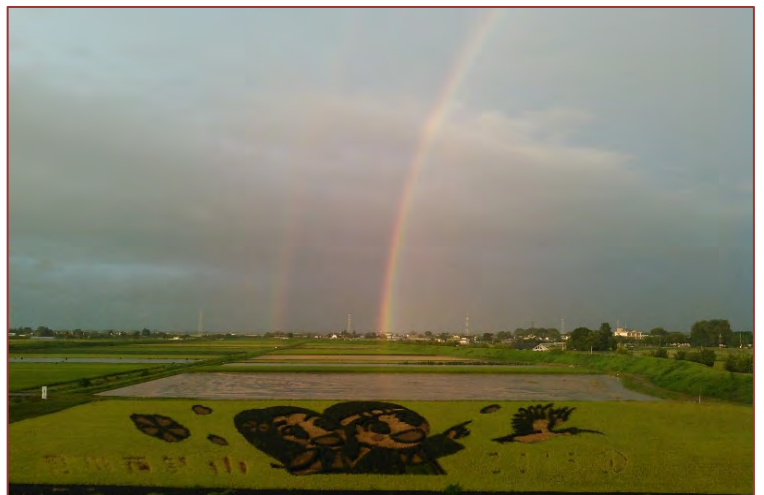
このような土地柄であるため、思川西部土地改良区では、かんがい期間の取水操作や大雨増水時の排水対応等の農業水利施設の管理や農道整備といった土地改良事業に関する日常業務のほかにも、地域の子供たちが参加する生き物調査や「おやま田んぼアート事業」の実行組織として農業体験イベントを開催し、洪水対策として「田んぼダム」を導入するなど地域に密着した管理・活動を精力的に行っています。



渡良瀬遊水地のコウノトリ



与良川第 1・第 2 排水機場



おやま田んぼアート渡良瀬遊水地会場

3. 水土を守る苦勞・エピソード

(1) 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨での対応

本地域では平成 27 年 9 月に 3 日間で 325mm の記録的豪雨に見舞われ、与良川第 1・第 2 排水機場、新荒川排水機場、荒川排水機場及び塩沢排水機場の計 5 基による排水を行ったにもかかわらず、約 100ha の区域で最大水深 1m、湛水期間 1 週間の被害が生じました。この 3 日間は地域内の水を渡良瀬遊水地に排水するために徹夜で対応し、水が引くまでの 1 週間は排水機場に泊まり込みで張り付く体制になりました。この時、与良川から渡良瀬遊水地への排水を担っていた与良川第 1・第 2 排水機場の建屋に河川から越水した水が逆流して侵入し、さらに、地域内の排水路から思川への排水を担う荒川排水機場は完全にポンプごと浸水

しました。当時は前代未聞の豪雨災害に災害時の体制が取れずに収束にも時間を要しましたが、これを受けて地域内の連携を密にして災害時の体制を整える等の対策を行い、令和元年東日本台風(台風第19号)による豪雨災害では被害を最小限に抑えることができました。



機場が浸水する中での決死の作業



平成 27 年 9 月 関東・東北豪雨

(2)「田んぼダム」への取組

平成 27 年の豪雨災害を受け、地域下流部における排水の負担を軽減するために、平成 28 年度より「田んぼダム」の検討に乗り出しました。

田んぼダムとは、田んぼの排水口を落水柵に取り換えて排水を調整することで、大雨時に一時的に田んぼに水を溜めてゆっくりと排水し、洪水被害を軽減する取組です。

田んぼダムの導入に向けて、先進地である新潟への視察及び宇都宮大学と連携した効果検証や勉強会を行うといった情報収集に励みつつ、落水柵設置に関する地元説明会を行った結果、平成 29 年には多面的機能支払交付金を活用して、地域内への落水柵の設置が開始されました。その後、地元の理解とこれまでの努力が実を結び、5年間で約 3,000 か所(水田約 1,200ha)への設置が実現しました。地域内の南側への導入が進んだ現在では、大雨時における地域内の幹線排水路の水位が下がったとの報告がありました。



田んぼダムと落水柵

（３）国営栃木南部農業水利事業への思い

国営栃木南部農業水利事業が平成 28 年度より実施されており、老朽化した排水機場が改修され、排水路が拡幅される予定です。これにより、地域の湛水被害のリスクが軽減されることを期待しております。また、国営事業実施後も引き続き管理・操作をしていきたいです。

4. 水土を守ることへのやりがい・思い

度重なる水害に見舞われながらも米麦を中心とした営農を続けてきた兼業農家の方々やイチゴ、ニラ、レタス、トマト等の施設園芸を中心として行ってきた専業農家の方々のおかげで、現在の地域の農業があると考えています。これからも引き続き頑張っていく農家の方々や次の世代のために、働きやすい環境を残していきたいです。また、最近では地域外から参入してくる農家も増加しており、これからはスマート農業や ICT といった最新の農業技術も学びつつ、様々な農家の方々のニーズに応えていくことも大切だと考えております。



お話を伺った思川西部土地改良区の皆さん

【取材：関東農政局 栃木南部農業水利事業所】

「新・水土を守る人々」シリーズは、農林水産省HPでも紹介しておりますので、是非ご覧下さい。



公開先 URL

<http://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/museum/suido/170220.html>

←アクセスはこちら！！

※農林水産省HPへのリンクは、ご自由に設定していただいて構いません。

（詳細は農林水産省HP「リンクについて・著作権(<https://www.maff.go.jp/j/use/link.html>)」を参照願います）